

アグリ

ワークポイント



茶指導販売課 福手 裕三

一番茶後の整枝

整枝時期は、一番茶摘採の早晚に応じて整枝時期を調整してください。みる芽で摘採した茶園は、早すぎると遅れ芽が再発して二度手間になるので、一番茶摘採後10〜14日くらいおいてから整枝してください。逆に、コワ葉で摘採を行った茶園は、一番茶摘採後5〜7日くらいおいてから整枝しましょう。二番茶の摘採期は、極端な整枝をしない限り、一番茶摘採日から起算します。整枝の深さは、遅れ芽を取り除く程度に浅く摘採面を整えましょう。

更新

樹高が高くなり過ぎると作業が難しくなります。乗用型摘採機では、設定できる刈刃位置が限られているので計画的に樹高を調整しましょう。また、摘採面の枝が細く、芽数が多くなりすぎた茶園は、一番茶後に更新しましょう。

- (1) 浅刈りは、摘採面より3〜5cmの古葉が少し残る程度でせん枝しますが、二番茶が一週間の遅れ程度で摘採できます。
- (2) 深刈りは、摘採面より10〜20cm下でせん枝します。
- (3) 中切りは、地上30〜50cmの高さでせん枝します。せん枝する部分の枝は7mm程度で、更新効果は4〜5年程度です。
- (4) 台切りは、地際から10cm程度でせん枝しますが、強度のせん枝であるため樹形が整うまでに時間がかかります。

茶園巡回をしていると、更新位置が中途半端な深さで、十分な更新効果が出ていない茶園を多く見かけます。個々の経営面積を考慮し、計画的に早めの更新をして、樹勢のある茶園をつくりましょう。

病害虫防除

5月に入り、気温の上昇に伴って各種病害虫の発生が増加します。特に、ウンカ・スリップス・炭疽病・もち病は、二番茶芽の萌芽から生育期にかけて加害や感染する恐れがあるため注意が必要です。各地域で防除情報を出しているので、確認して対応しましょう。

